

睦合森友クラブ

みんなで森づくり ~SINCE 2006~

みんなの山づくり
睦合森友クラブ ~植物観察会~



西川町睦合（横山氏所有林）で“みんなの山づくり”『睦合森友クラブ ~植物観察会』が植物案内人の志鎌節郎さんを講師に迎え開催されました。約25名が普段何気なく見ている林の中の植物を熱心に観察しました。

日時：平成20年5月31日（土）10：00～15：00

場所：西川町 睦合 みんなの山づくり現地

主催：睦合森友クラブ

実施状況

あいにくの小雨のぱらつく、ちょっと肌寒い天候でしたが、10時に下の駐車場で開会です。開会（早坂さん）講師紹介（横山さん）に引き続き早速、本日の講師である志鎌さんにお話していただきました。



植物案内人 志鎌節郎（しかま せつお）さん、
山形市野草園の嘱託職員、自然観察指導員、蔵王山岳インストラクター、東北植物研究会会員など植物に関わるさまざまな分野でご活躍中です。

いつも活動している森林の植物の種類や特徴を知ることによって場所への愛着を深めるとともに、森林整備の進め方を考えるうえでの参考にするため、現地の植物の解説をしていただきました。

開会后、さっそく、スギ林にはいりました。比較的間伐され下層の広葉樹も元気な林です。(スギの密度管理が適正に行われているか否かは、林床の植物の種類によっても見ることができます。)スギ林の中では少々の雨も気になりません。

普段、道刈りなどでスパッと鎌で刈っている植物のなかには、葉の裏に可憐な花をつけているものもあることを知りました。



スギ林を抜けると既設の林道に出ます。その林道の上部は尾根で広葉樹の林です。今年この広葉樹の林を通して先のスギ林に抜ける作業路を横山さんが開設しました。今話題の低コスト作業路(四万十式風)です。

ここでは、広葉樹や比較的乾燥した土地を好む植物、作業路法面では尾根部の薄い表土の状況も観察できました。



作業路付近観察中の一場面

横山さん「この林は手を入れてやるとキノコが出るんですよ。おれの親父も・・・(中略)・・・これから少し刈ってみようかと思って・・・」

参加者1「刈りに、来ます」 参加者1さんからすかさず声がかかりました。

参加者2「きのこ、出たら来ます」

参加者3「きのこ料理、出来たらきます」・・・

・・・クラブでは、こういった山の作業を横山さんがするとき、会員のみなさんにメールでお知らせしたいと考えています。



植物の名前にも、それぞれいわれや深い意味があることがわかりました。
今まで、何気なく刈っていた草にもいろんな背景があったんですねえ。



モウセンゴケ：林道切取法面の湧水箇所

横山さん
そっちにもワラビ！



ハイハイ

ワラビトリ：林道盛土法面

観察の途中、林道で昼食をとる予定でしたが、雨天のため、山での昼食をあきらめてちょっと先を急ぎ、全コースを昼食前に観察しました。

12:40

遅昼での昼食は横山さんの自宅をお借りしました。ありがとうございました。

今回はミズ+豚肉+厚揚げの味噌汁、ごはんは各自おにぎりをもってきての昼食です。
手馴れた包丁さばきと、ターボ付七輪で程なく味噌汁ができました。



また、横山さんの裏山から孟宗竹を頂き、器と箸をつくりました。
竹の器の飲み口の厚さや、箸の長さには微妙なちょうどいい寸法があるということがわかりました。



持参の漬物なども加わり、近況や山への思いなどをしゃべりながらの昼食になりました。



会員のコメントなど

- ・杉林の中でも、いろいろな草花があるんだねえ
- ・アラアラ、ちゃんと先生のお話し聞かないと怒られるわねえ（会員の さん、ワラビをとりながら）
- ・春にも来たのよお～。タラの芽採ろうと思ってチェーンソーで作業中の横山さんにタラノキ伐ってもらって採っちゃった

（ 「人使い荒いんだあ！」と言いながらも、まんざらでもなさそうな横山さん（^_^;） ）

・山菜がたくさん入っておいしい豚汁でした。My 箸&器だから味も格別！

・「竹はいいねえ。持ち帰ってピアグラスにしよう！」「...カビてきますよ」「あ、そうか...じゃあ、植木鉢だな、小さな花の。母ちゃんにプレゼントしよう！」

次ページからが、志鎌さんが作ってくださった、当日の資料です。

もう、睦合の山の植生調査報告書といった感じです。これで又一段と現地に愛着がわいてきた気がします。また、この資料をもって違う季節にも同じコースを歩いてみたいものです。

報告者：村山総合支庁 産業経済部 森林整備課 普及担当 工藤 大

事務局から睦合森友クラブ会員の方へ

平成20年度の会費を納入してください。（1,000円、用途は主に通信費です）

村山総合支庁森林整備課にお持ちいただくか、下記へ振り込んでください。

山形銀行 寒河江中央支店 普通貯金 睦合森友クラブ
店番号：344 口座番号：507865

横山さんの山の作業の日程お知らせや会員相互の情報交換の場として、「らくらく連絡網」というメールシステムを使っています。

これは登録した人にクラブからのお知らせをメールしたり、自分の活動（文章や写真）が登録できる掲示板です。もちろん登録していれば他の会員もコメントが残せたりします。

今、ここで話題になっているのは・・・。下の「しんゆ～・コラム」をご覧ください。

無料なので少々広告も送られてきますが、有害なものはありません。パソコンや携帯電話からの利用が可能です。通信費節約にもなりますので、是非登録してください。

登録については、下記まで連絡ください。

o-yokoyama@ric.hi-ho.ne.jp（横山） kudod@pref.yamagata.jp（工藤）

しんゆ～・コラム

・先日のTV番組「いきなり！黄金伝説」をご覧になった方います？ オロゴン兄弟が金山町の“遊学の森”を舞台に山菜だけ食べて、ツリーハウスに寝泊りした番組です。

・これを観た一部の会員の心に火がつかしました。「俺もつくりてえ」

・さっそくこの提案が「らくらく連絡網」に載りました。

・連絡網の中で会話がかずみ、“遊学の森”に見に行こう！なんて提案も出てきました。

・横山さんも「飲めればいいよ」なんて言ってます（^_^;）

・まだどうなるかわかりませんが、これも「山を楽しむ活動」ですよ

・しばらく状況を見守りましょう。あ、「面白そうだ、私も参加したい」って方もどんどん連絡下さいね。

どうです？ 連絡網って楽しそうでしょ？ のぞいてみるだけでも楽しいですよ

みんなの山づくり

現地植物観察会



ウラジロヨウラク

2008.5.31.睦合森友クラブ
村山総合支庁産業経済部森林整備課

みんなの山づくり 森林の中の植物観察

ここ西川町睦合は村山盆地の西方に位置し日本海区系の植物の豊富なところですが、日本海区系植物の特徴は、しなやかな樹幹を持つこと、葉が大きく薄いこと、などが上げられ、冬の多い雪と夏の穏やかな気候に対応して変わってきたものと考えられます。昔の人達はこれ等の特徴を利用し、いろんな道具や山菜として利用していたと考えます。この様な山を「里山」と言い、千年以上も前から人々の手が掛けられ薪炭林や、用材を生み出す場所として大切にされてきた場所です。この様な山は、見守る山ではなく、昔同様手を掛けて守るべき場所です。間伐や下刈など適切に人々が手を掛けることにより、千年以上も守られてきた山です。

この様な、昔話に良く出てくるお爺さんが裏の山で柴刈りをした山で、今どのような植物が生育しているのか、皆さんと一緒に見てみたいと思います。

現在見られる里山植物



タニウツギ (スイカズラ科)

北海道から本州の日本海側に自生している植物です。山形では普通に見られる植物で、今の時期良く目立ちます。でも、山形ではガザとかホネカラバサミと言いかの敷地内に入れることを嫌います。この木にある種のダニが付き蚕を殺す菌を媒介するためと言われています。



ウゴツクバネウツギ (スイカズラ科)

東北地方の日本海側から新潟県に分布する植物で、日当たりの良いところを好みます。太平洋側のツクバネウツギに比べ葉が大きく、花冠の内側の基部に腺毛あり、クッション状に盛り上がります。この辺には普通に有ります。ツクバネウツギは、ビャクダン科のツクバネから来ています。



ウスノキ (ツツジ科)

別名カクミスノキといい、ウスノキは果実の真中がへこみ臼のような形になる事による。カクミスノキは実に稜角が有り5角形に見えることによる。ツツジ科の植物は乾燥気味で、表土の薄いところに多く見られます。



ウリハダカエデ (カエデ科)

緑色をした幹に縦縞模様が出るため、瓜にたとえて瓜肌楓の名が付いたとされています。山形のある地方ではオッカノキといひます。若い真っ直ぐな枝を切り皮をはいで蓑の材料にしたため、背負う皮の木でオッカノキだそうです。皮をむいた心材を縦に裂き箕を作ったそうです。



ラショウモンカズラ (シソ科)

花冠の部分の形が羅生門の鬼の二の腕に似ているので、ラショウモンカズラだといわれています。花の時期はツルもあまり伸びていないので良いのですが、花後所かまわずツルが伸びて大変なようです。林の中に生えると言われますが、林道脇などでよく見かけます。



フタリシズカ (センリョウ科)

近い仲間のヒトリシズカとよく似ていますが、ヒトリシズカの葉が4枚輪生するのに対し、フタリシズカは葉が十字対生になり、穂状花序を2本以上出す点で簡単に区別できる。フタリシズカのほうが後から咲きます。



ケナシャブデマリ (スイカズラ科)

名前の通り毛の無いヤブデマリですが、ヤブデマリそのものは関東以西の植物です。ケナシャブデマリは中部地方以北の日本海側の植物で、ヤブデマリに比べ葉も花も大きく豪華です。谷間の湿地が好きな植物です。



ガクウラジロヨウラク (ツツジ科)

表紙に使った写真のウラジロヨウラクの変種で、ガク片の長くなったもので、本州北部の山地に自生する。わざわざ分けなくとも良さそうだが、分けないと気のすまない先生方が多いようだ。ウラジロヨウラクと混じって生えています。

杉林の中と雑木林の中は、下に生えている植物は少しずつ違っているのがわかったと思います。その違いは太陽の光の量や、水分の量、表土の厚さによります。

付録

時々面白いものに出会えます。



ミヤマナルコユリ上から見たもの



ミヤマナルコユリ裏側

ミヤマナルコユリはアマドコロやナルコユリの仲間ですが、上から見たときは葉っぱだけ見えません、裏を返してみると写真のように花が付いています。他の植物は花粉を媒介する昆虫に来てもらうため、目立つような場所に花をつけるのが普通ですが、こんな花もあるのです。